

# ねっとわーく水沢

<第 100 号>2025 年（令和 7 年）1 月 25 日（土曜日）

編集・発行 水沢地区振興会内、水沢地区広報委員会  
事務局 水沢公民館内  
電話 758-3101 FAX 758-3102

### 地区内世帯数・人口(12月末日現在)

1,779世帯 4,569人

(男 2,238 人 女 2,331 人)

前年同月比

世帯 - 22 世帯 人口 - 148 人

# 祝 第100号



ねっとわーく水沢は、平成14年1月10日に創刊予告号、同年4月10日に第1号を発行し、それから年に4回を目標に発行してまいりました。そしてこの度、記念すべき第100号を迎えることができました。

ねっとわーく水沢を読んでいただき、また快く取材にご協力くださる地域の皆様、この活動を支えてくださる水沢地区振興会に心より感謝申し上げます。

◆ 編集後記	◆ 水沢地区振興会副振興会長あいさつ	◆ 祝第100号記念
◆ 已年「年男・年女に聞きました」	◆ 水沢商工会工業部地域貢献事業	◆ 2
◆ 馬場小学校特集	◆ 3	◆ 3
◆ 6	◆ 5	◆ 6
◆ 6	◆ 4	◆ 4



次ページでは、発足当時を知る歴代の編集委員の方々よりねっとわーく水沢の発足、初代編集長の思い、未来に向けてなど綴っていただきました。

「広報誌一〇〇号発刊を記念して」

この度は、広報誌発刊が一〇〇号を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。

私が事務局として携わったのが平成16年から28年の12年間でした。その時の編集長亡くなられた上村良徳さんに最大の賛辞と感謝です。創刊間もない頃は、地域情報を皆様に如何に早く周知することが出来たか、また記事内容がマンネリ化していないかなどで苦心した覚えがあります。いま水沢地域の関心事は、高規格道路(上沼道)、市道高山水沢線の促進状況などの情報をタイムリーにお知らせすることが必要かと感じています。

最後に地域に愛される広報誌として、更に二〇〇号を目指して、スタッフのご奮闘とご活躍を祈念しましてお祝いの寄稿といたします。

伊達第三区 宮澤 良旭



発行第100号おめでとうございます

私は、広報紙を発行する時から編集委員として十数年間、勤めさせて頂きました。

思い出すといろんな事がありました、始めの頃は、ねつとわーく水沢を地区の皆様には認識されておりませんでしたが、発行を重ねて行く中で知名度も上り、原稿依頼が楽に成って行つたと思い出します。

広報誌をもつと良くしたいと話し合い写真を多く取り入れたり、紙も変えてもらい、単色印刷から2色印刷そしてカラー印刷に成り皆さんだものです。ページ数も増え製本作業をして頂いている通信員の皆様に負担をかけたり、予算の問題もありました。

発足する時、初代編集長がねつとわーく水沢の意義を話してくださいました。各集落のいろんな事を広報誌で共有してつなげて行きたいそうです。これからも長く続きますよう願つております。

宮澤一徳

100号発行、おめでとうございます。

2002年、水沢地域の情報誌の発行をと当時の振興会長 樋口誠氏から招集を受け出席しました。

メンバーメンバーに上村捨二郎、金沢眞治さんという超ベテランの顔が見え、これは場違いなところに来てしまったなと思ったのもです。案の定、私の出した原稿に「これは文章ではない」とベテランさんに指摘され大きくへこんだことがありました。

そんな私ですが、当時の上村良徳委員長がよく話していた「誰でも投稿しやすいように、その人の言葉で書いた文章を大切に」をよりどころに10年間参加させていただきました。

当時は広報委員が手分けして取材に出かけたことを思い出します。上村委員長を中心に和気あいあい、この経験は私の中ではとても貴重なものであったと感謝しています。

元編集委員 井口 敬子(伊達)



100号発行、おめでとうございます。

年4回発行で03年近くの日々を、編集委員の皆様が脈々と継続された事、心から敬意を申し上げます。その編集に私も携わる事十数年、退任した今、振り返れば、取材や編集等、とても貴重な体験と良き委員仲間との出逢いがあり、私の中での大切な、大切な想い出の一ページです。次の目標は200号でしょうか。

編集委員各位の熱意とファイトと御尽力で、地域の若い方々を巻き込み、どうかこれからも永く発行して頂けますように、心からお願いを申し上げます。

大口 武四郎

## 「令和の振興会」

水沢地区振興会副会長 村山 一夫

新年あけましておめでとうございます。水沢地域のご家族の皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

合わせてねっとわーく水沢広報誌の第一〇号の発行、おめでとうございます。多くの地域の情報を編集委員会の皆様方のご努力でここまで活動されました事に感服いたします。

私は、令和の「三本の矢」の一人、令和元年に副会長に任命され、三期六年目となりました。また同期に厚生環境委員長も兼務しております。今少し振り返りますと、最初は何も良く分からぬ私に出来るのか不安ばかりの活動でしたが、川田会長はじめ大勢の方からご協力ご支援を頂きながら、何とか現在になります。その中で、令和二年頃からの新型コロナウイルスの感染症には、すべてにおいてショックな状況に向かい、世界や社会生活が一変した記憶に新しい未曾有の出来事でした。その影響力が未だに強いかで、この先も個々に感染対策に気をつけて終息に心がけたいものです。

今後は、人口減少やそれに基づく中学校の学区再編計画の進め方、棚田振興法による地域の活性化に向けた取り組み、そして高規格道路上沼道の早期完成の計画促進があります。そこで関連した取り組みの中で、十日町道路一〇、八kmの十日町インター近くで、魅力いっぱいの道の駅を造つたらいいか、今年で三年目になる水沢中学校いの生徒さん全体でのアイディア発表会が昨年の11月に行われました。とてもやわらかい発想で、大人になつた時に、どんな所だつたら行きたいかな



柔軟な意見に長岡国道事務所、市の建設課様他の協力により、夢が実現するのに期待がいっぱいで楽しみです。

この他にも集落の空き家対策や多くの案件がありますが、水沢地区振興会の活動にご理解ご協力をいただきながら、地域の皆様といっしょになつて、「住んで良し水沢」・「楽しい水沢」・「元気な水沢」と少しでも役に立てるよう活動して行きます。どうぞ故郷水沢地域に明るい未来あれ。

結びに本年が皆様にとりまして、幸多き年になりますように御祈念申し上げます。

### 水沢商工会工業部地域貢献事業

今年も水沢商工会工業部では、地域貢献事業として水沢小学校、水沢中学校、水沢南部保育園、平成園、水沢公民館の5つの施設で修理・補修の奉仕作業を行いました。

長く続いているこの事業、地元の職人さん達は、公民館利用者のため、また地域のため、子供たちのため、という思いで張り切って作業に取り組んでいました。公民館の職員は「我々ではなかなか出来ないので助かります」と話していました。小学校の遊具の塗装作業では、4月から馬場小学校と水沢小学校が合併し子供たちが遊ぶ遊具ということもあり、丁寧にペンキ塗りをしていました。

水沢地域の職人さん、忙しい中奉仕作業をして下さり有難うございました。お疲れ様でした。





# 馬場小学校特集




## 馬場小学校閉校記念式典

明治4年	柏崎県第三分校として「汎愛村校」と称し、富井邦彦氏宅を借用して開校
明治20年	「尋常科馬場小学校」と改称
明治36年	当間・沢入雪途派出所が開設
大正6年	「馬場分教場」開始
大正8年	馬場分教場にて、青年、地区民を対象に夜学開始
昭和16年	「水沢国民学校馬場分校」と改称し、初等科5年まで収容
昭和22年	「水沢村立水沢小学校馬場分教場」と改称
昭和24年	馬場分教場は地元の熱意が実り「水沢村立馬場小学校として独立校舎で再発足
昭和25年	「馬場小学校珠田分校」設置、認可(1~4年通年、5・6年冬季のみ)「市ノ沢冬季分校」開設
昭和37年	水沢村は十日町市に合併 校名は「十日町市立馬場小学校」と改称
昭和41年	校章が制定され、富井廣松様より校旗が寄贈される
昭和48年	創立百周年記念式典及び事業活動が行われる(グラウンド造成、校歌制定等)
昭和60年	本校校舎、体育館、分校校舎の竣工式挙行
平成30年	「やればできる」新看板設置
令和3年	新潟県文化祭2021にリコーダー部が出演
令和4年	創立150周年記念式典・記念祝賀会挙行 学校情報化優良行に認定される

昨日の11月3日、馬場小学校閉校記念式典が執り行われました。当日は、式典に312名、その後の惜別の会に170名が出席されましたとのことです。式典の中では、馬場小学校への通学や新たな環境での適応等の様々な心配事もあつたところです。式典の中で関口市長は、「保護者の方々、地域の方々には、水沢小学校への通学や新たな環境での適応等の様々な心配事もある」というが、市と教育委員会として最善をつくす」と約束をしました。

また閉校記念式典実行委員長の金澤生代道さんは、「やればできる」という言葉のもと、子供たちの元気な姿は地域を明るくし元気と勇気を与えてくれた。児童の皆様が毎日元気に学ばれることを心から願っている。ありがとうございます、馬場小学校」と挨拶されていました。

記念式典第2部では、児童によるリコーダー演奏と合唱があり、参列した保護者や地域の方々が涙ながらに聴いている姿がありました。式典と記念碑除幕式の間や除幕式後には、旧友同士、歴代の先生方と思い出話に花を咲かせている方も多く、また当日はお天気に恵まれたこともあり、参列されたみなさんが思い思いで馬場小学校で過ごした日々を思い出しているようでした。 K・C

## 馬場小学校閉校記念事業 東京リコーダーオーケストラ演奏会

昨年11月27日、馬場小学校では十日町段十ろうホールにて、馬場小学校閉校記念事業として東京リコーダーオーケストラメンバーの東京ブロックフレーテ・アンサンブル(5名編成)によるリコーダーとギターの演奏会が行われ、令和7年度より統合となる水沢小学校と馬場小学校の交流も含め、会場には両小学校の児童と保護者、水沢地域住民が演奏を聴きに訪れていました。いろいろなりコーザーの紹介をしながら演奏がはじまり、小学校の音楽の授業で習う曲や聞き慣れた曲の演奏もあり懐かしく和やかな雰囲気で聴き入っていました。そして会場のみんなでリズムを感じながら、アンデス民謡の演奏に合わせ少し体を動かしたり、世界の珍しい笛や打楽器でみんなが大好きなスープーマリオ・ブランザーズの曲などを聴いて盛り上りました。最後は、東京リコーダーオーケストラの演奏で児童と会場の保護者と地域住民の皆で一緒に「ビリーブ」の曲を歌いました。会場いっぱいに響きわたる歌声で4月から統合する馬場小学校と水沢小学校の児童と保護者と地域住民と先生が一つとなり強く包み込んでいました。4月から新たに統合しスタートする児童たちを先生と保護者と地域住民で守っていくことの大切さを強く感じる素晴らしい演奏会だったと、とても感動しました。



## △馬場小学校記念碑△

昨年11月、閉校を迎える馬場小学校に、記念碑が建立された。金澤後援会長が発案し、寄付を集めて記念碑建立が実現した。記念碑は在校生の思い出になるようになると、今年在校している全学年の生徒の手形を押し、ネームプレートが入るデザインに。お盆頃から基礎作りが始まり、10月11日に手形を押した。

1人目に手形を押した、富井こころさんは、「この記念碑が時代を超えて残って、馬場小学校を未来の人たちに伝えられたらいいなと思いました」と語った。

2人目に手形を押した、富井たいちさんは「すごく良い出来だったので、いつまでも残っていて欲しいです。」と語っていた。



# 新春企画

## へび年の年男・年女にきいてみました

馬場 富井高志 60歳

- ①還暦なので、第二の人生を元気よく踏み出したい！！
- ②子どもの結婚式（感動しました！）
- ③妻への感謝（今日この頃）
- ④「馬っぽんしょ」で雪まつり水沢駅広場に雪像を作ります。



伊達 上村幸吉 72歳

①今年失敗した野菜の勉強をしたり、色々な野菜にも挑戦してみたいと思っています。又、ゴルフも少しは上手くなるように、自分なりに作業所の所で練習したり、みんなとコースに出たりして、みんなと同じレベルになるようにしたい。

②一昨年の暮れに、家内の姉の旦那が亡くなり、正月早々葬式があり、2ヶ月位おとなしく作業場兼車庫の2階の部屋の作成にあたっていました。3月頃、膝を痛め病院に3ヶ月位通院、後は毎年の事で、家庭菜園とゴルフの繰り返しの毎日でした。

③それは健康しかないと思っています。健康なくして何も出来ない、そう思っていてもなかなか出来ない、それが自分の悪い所（意思の弱い所）

- ①新年はどんな年にしたいですか？
- ②昨年、一番思い出や印象に残ったことは？
- ③日々の生活の中で心掛けていることは何ですか？
- ④PRしたいこと  
(地域や家族、職場、趣味など何でも)



伊達 福原一聖 48歳

- ①やりたいことは全てやる！
- ②3匹目のネコが加わった
- ③食べすぎないこと
- ④お庭のことなら 福原造園



天池 岩田ハルエ 84歳

- ①健康な一年で過ごしたい。ちょこ(犬)と散歩すること。
- ②野菜が暑さで育たなかった。
- ③自分の事は自分でし、少しでも周りの助けになりたい。自分の事は自分でし、少しでも周りの助けになりたい。
- ④天池は小さい集落だけれど、老若男女気兼ねなく話ができるいろんな行事に参加できる。

編集後記

い員誌読域まこ知行方で、○今たたくる機会あつて樂をすな方の材  
ととをいのすと。にから更に学び、○度に水澤の編集委員とし水  
と思し目た皆こにとがする背景、○年に水澤の編集委員とし水  
いて指だ様れ謝がする背景、○年に水澤の編集委員とし水  
ます。張編るららし出来背景、○年に水澤の編集委員とし水  
f・り集広ごもて來いたを發のと○てまいな方の材  
cた委報愛地いたを發のと○てまいな方の材